



ANNUAL
REPORT
2023
MINAMI
YAMASHIRO
GAKUEN
事業報告書

artspace co-jin
で利用者様9名が
グループ展開催



2023年度 事業報告書 発行:社会福祉法人 南山城学園 〒610-0111京都市城陽市富野狼谷2-1 TEL.0774-52-0425 <https://minamiyamashiro.com>

基本理念

- 01 **利用者様の尊厳を守り、幸福を追求する。**
 私たちは利用者様の人としての尊厳を重んじ、一人ひとりのかけがえのない人生に寄り添い、ともに幸福を追求します。
- 02 **地域のニーズにパイオニア精神で取り組み、「共生・共助」の地域づくりに貢献する。**
 私たちは、社会福祉法人として培ってきた専門性やノウハウを最大限に活かし、地域社会における福祉ニーズに率先して取り組み、課題解決に努めます。また、すべての方が住み慣れた地域で互いに寄り添いながら暮らせる福祉社会の実現に貢献します。
- 03 **いつでも誰もが安心して利用できる福祉サービスを創造する。**
 一人ひとりの特性に応じた適切なサービスを提供するため、さまざまな事業を展開し、安心して利用できる新たな福祉サービスを創造します。

7つの誓い ~職員がめざすべき行動基準~

- 01 **質の向上に向けた意欲と実践**
 私は、利用者様の幸福のため、利用者ニーズに即応して、結果を出せるよう自らが行動を起こします。
- 02 **ルールと正確性の重視**
 私は、利用者様、職員など関わるすべての人々の安心・安全のため、ルールを守り正確性を重視します。
- 03 **利用者理解と個別サービスの追求**
 私は、利用者様の尊厳を守り、利用者様の理解に努め、質の高い個別サービスを追求します。
- 04 **セルフイメージの向上と影響力**
 私は、社会福祉の一端を担う者としての自覚と自信を持ち、人々に前向きな影響をもたらします。
- 05 **職員の支援と育成**
 私は、職員として、ともに学び、成長することを、互いの喜び・楽しみとします。
- 06 **チームワークとリーダーシップ**
 私は、チームの和を大切にしつつ、立場や状況にふさわしいリーダーシップを発揮します。
- 07 **専門性の向上と活用**
 私は、職務に必要な専門的、組織的能力を身につけ、発展させ、活用します。

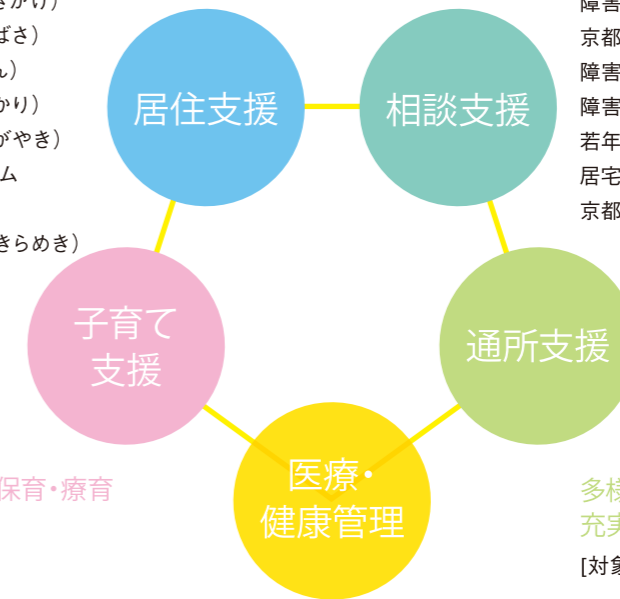
法人概要

事業内容	第一種・第二種社会福祉事業 (障害・高齢・保育・生活困窮者) 公益事業(診療所・研修事業)	経常収入	約45億円(令和5(2023)年度実績)
設立	1965(昭和40)年2月	事業内容	京都府城陽市/宇治市 /京都市伏見区・中京区 /大阪府三島郡島本町
代表者	理事長 磯 彰格		障害31か所/高齢3か所/認定こども園1か所・保育3か所など
職員数	約750名(令和6年4月1日現在)		

事業領域

自分らしく
 幸せに暮らせるよう、
 生活全般をサポート
 [対象]主に知的障害のある方や
 介護保険適用の高齢の方

- 障害者支援施設 円(まどか)
- 障害者支援施設 紡(つむぎ)
- 障害者支援施設 和(なごみ)
- 障害者支援施設 魁(さきがけ)
- 障害者支援施設 翼(つばさ)
- 障害者支援施設 凜(りん)
- 障害者支援施設 光(ひかり)
- 障害者支援施設 輝(かがやき)
- 知的障害者グループホーム
- ショートステイ ふらっぶ
- 介護老人保健施設 煌(きらめき)



子どもたちの
 主体性を育む教育・保育・療育
 [対象]乳幼児

- 認定こども園 ゆいの詩
- こども発達支援 Cocoro島本
- もりの詩保育園
- 小規模保育事業 そらの詩保育園
- 小規模保育事業 るりの詩保育園
- 企業主導型保育 すずの詩保育園

医療と福祉の連携により
 安心・安全をサポート

[対象]主に施設利用者様
 南山城学園診療所
 和光診療所

住み慣れた地域での
 暮らしを続けられるよう、
 相談に対応

[対象]障害のある方や高齢の方、
 またご家族の方

- 山城北園域障害者総合相談支援センター ういる
- 障害児(者)地域療育支援センター ういる
- 障害者生活支援センター はーもにい
- 障害者支援センター じゃすと
- 障害者就業・生活支援センター はびねす
- 京都府地域生活定着支援センター ふいっと
- 障害児(者)相談支援センター リーふ
- 障害児(者)相談支援センター ういっしゅ
- 若年者等就労支援拠点 サザン京都
- 居宅介護支援事業所 すまいる
- 京都市障害者休日・夜間相談受付センター

多様なニーズを受け止め、
 充実した日中活動の場を提供

- [対象]地域で暮らす障害のある方や高齢の方
- 知的障害者デイサービスセンター あっぶ
- 身体障害者デイサービスセンター すいんぐ
- 就労移行支援・就労継続支援A型事業所 さびゆいえ
- 障害者デイサービスセンター わこう
- 児童日中一時支援事業所 ちゅりー
- デイセンター ふらっぶ
- 高齢者デイサービスセンター すまいる
- 通所リハビリテーション 煌(きらめき)

変わらないために変わり続ける未来志向の社会福祉法人を目指して

2015年に国連で採択されたSDGsを視野に入れ、経営の持続性と地域共生社会の実現を同時にめざす「中期経営計画2025」も残すところあと1年となりました。

「中期経営計画2025」では、「創造性の発揮」(Creativity)、「経営資源の有効活用」(Resource)、「暮らしの質の向上」(Quality)を3つの柱として掲げ、既存の事業の経営基盤を更に強固なものとするとともに、新たな地域課題に積極的に取り組んでまいりました。

具体的には、幼保連携型認定こども園「ゆいの詩」および併設する「Cocoro島本」の開設や民間企業と大学等研究機関、当法人による産学福連携(KOUFUKU連携)等をはじめとする新規事業のほか、老朽化した障害者施設の改修・個室化による生活環境の改善やリハビリ強化、異年齢保育の充実等の良質な福祉サービスの提供、「スーパーローテーション制度」や「4週8休制度」(年間休日120日)の導入、更なる処遇改善(大卒初任

給24万円)等の働きやすい職場づくりなどです。

他方で、この間、3年半にわたる新型コロナウイルス感染症の感染拡大、原油価格物価高騰、令和6年能登半島地震をはじめとする相次ぐ自然災害等、さまざまな環境変化がありました。

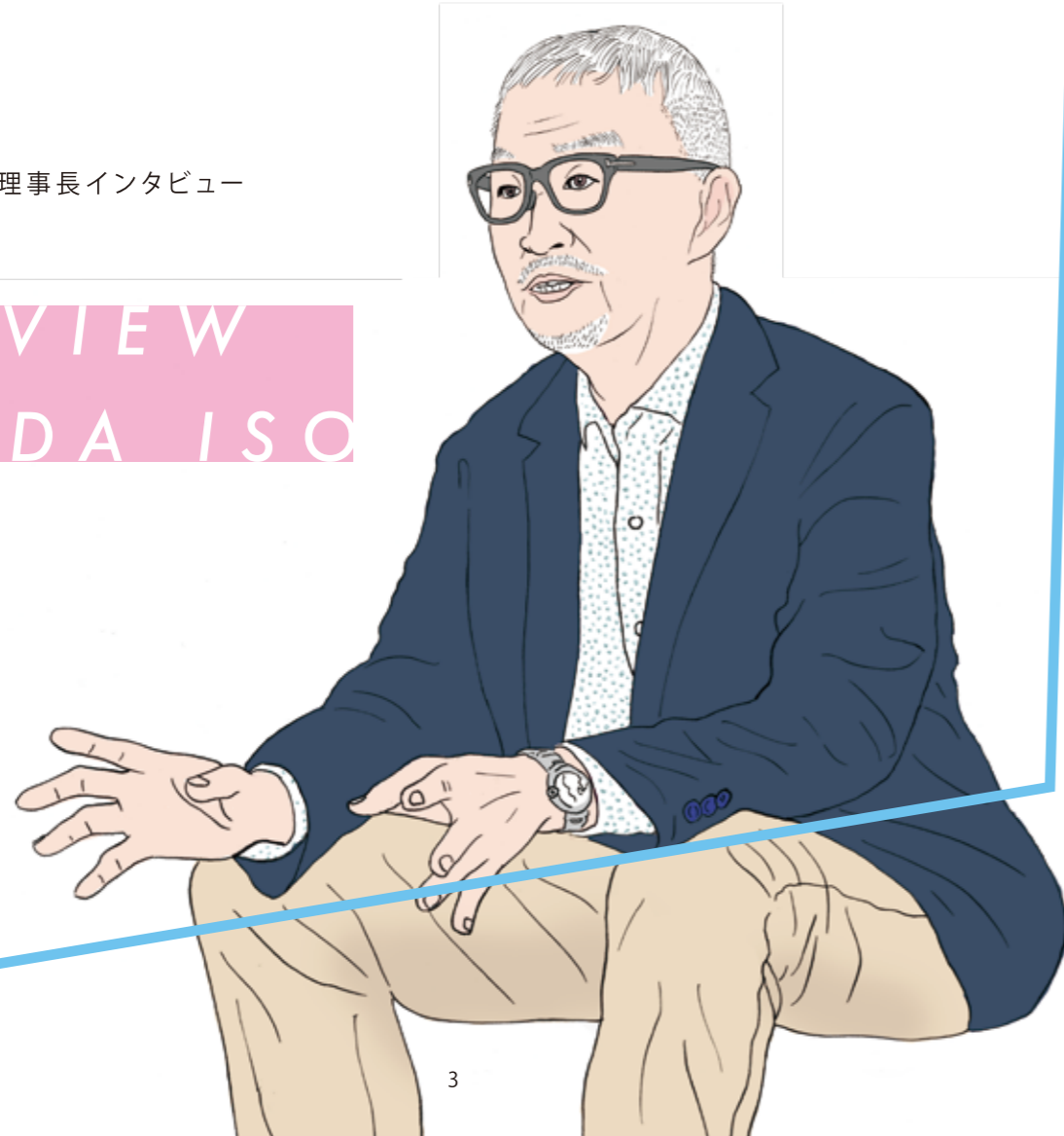
こうした中でも、我々は、地域社会の中で必要不可欠なエッセンシャルワーカーとして、利用者様の安全を守り、継続して福祉サービスを提供してまいりました。

コロナ禍の経験を踏まえ、2030年を見据えた次なる行動計画である「中期経営計画2030」の策定にあたっては、環境変化に柔軟に対応し、絶えず新たな課題にチャレンジしていきたいと考えております。

利用者様の幸福追求という不変的な目的を実現するために、「変わらないために変わり続ける」。

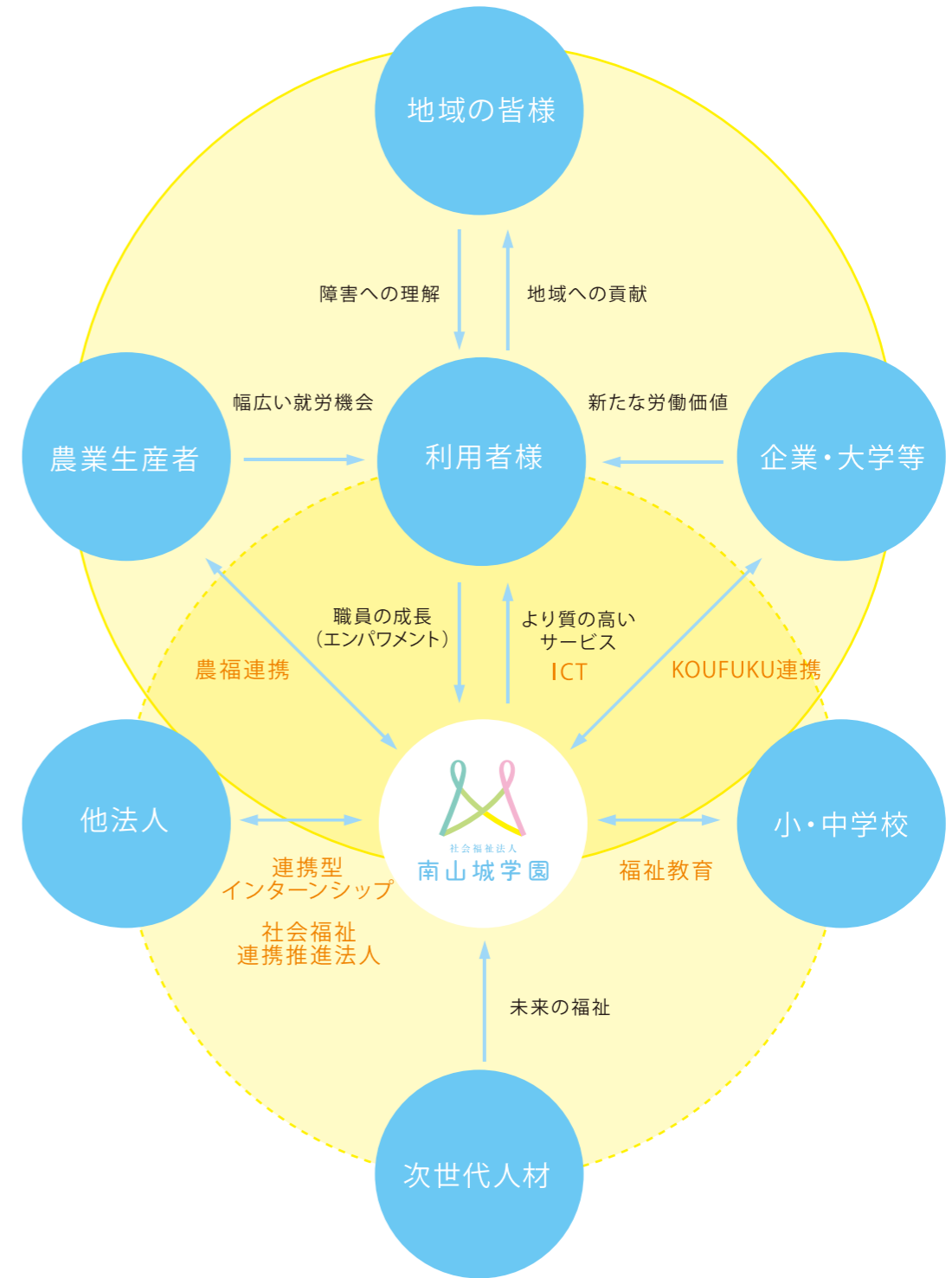
「中期経営計画2030」では、こうした未来志向の社会福祉法人を職員一丸となって目指してまいります。

いそ あきただ 磯 彰格 理事長インタビュー



INTERVIEW
AKITADA ISO

利用者様がまんなかにいる地域共生社会の実現に向けて、未来志向の取り組みを続けます。



	SDGsにおける目標	2020	2021	2022	2023	
創造性の発揮	1 共生のまちづくりへの参画 教育・農業・地場産業・住民組織など、幅広い関係者との繋がりをさらに強化します。 また、生活困窮者や就職氷河期世代などの支援を包括した、地域共生社会の実現を目指します。	貧困 パートナーシップ	福祉教育 循環型ファーム		健康体操教室	P11 P16・17 P16
	2 生産性の向上 ロボット・ICT技術を活用し、効果的・効率的な業務運営を行います。 また、利用者様の安全確保や健康管理面での先進技術開発に、積極的に参画します。	イノベーション パートナーシップ		KOUFUKU連携		ICTの活用 P9 P8
	3 研究と実践の連係 サービスの質の向上のため、産官学と連携し共同研究・発信を行い、新たな担い手の育成を図ります。 また、他法人と連携し、高齢知的障害者支援に関する共同研究に参画します。	健康・福祉 教育	強度行動障害支援者 養成研修 コミュニケーション支援 <PECS>		連携型インターンシップ	P10
経営資源の有効活用	4 魅力ある職場づくり 育児や介護などライフステージに応じた雇用形態、エキスパートからスーパーバイザーへの 昇格制度など、柔軟かつ職員の能力と意欲を高める人事制度を構築します。	ジェンダー 成長・雇用	スーパーローテーション 制度			
	5 人材の確保と育成 学生や一般求職者から選ばれる、魅力ある法人・事業所を目指します。 そのため、育成制度や、多様な働き方に応じた人事制度を確立します。	ジェンダー 成長・雇用	介護福祉士受験対策講座 ガイドヘルパー養成研修			社会福祉連携推進法人 P13
	6 就職氷河期世代など、幅広い就労支援ニーズへの対応 生活困窮者・障害者の枠組みを超え、カフェ、食品加工、農作業など幅広い「就労支援サービス」を 提供するとともに、福祉的就労・中間就労から一般就労への移行を支援します。	貧困 成長・雇用		若者等就職・ 定着総合応援事業		
暮らしの質の向上	7 障害者の多様な生活ニーズ、介護ニーズに対応する「暮らしの場」の整備 障害者の高齢化に対応するため、日中プログラムの抜本的な見直しやハード面の整備を図ります。 また、グループホームを含めた地域での暮らしを支える環境を整えます。	健康・福祉 平等 平和・公正	入居施設の個室化・ 環境整備		廃材を再利用したエコ活動 芸術活動の支援 商品開発	P7 P19
	8 リハビリ機能を活かした高齢者・障害者の自立支援の強化 介護老人保健施設・通所リハビリの機能を強化し、地域の高齢者ニーズに積極的に応えるとともに、 障害者の自立支援にもリハビリ機能を積極的に活用します。	健康・福祉 平和・公正	青空介護教室 機能訓練スペース開放		あおぞらヨガ教室	P16
	9 異年齢保育を柱とする子育て支援の充実強化 異年齢保育を中心に据えた保育の質の充実を図ります。また、法人が培ってきたノウハウを 活用し、子育て支援事業を拡充するとともに、既存の相談事業との連携を強化します。	教育 成長・雇用			認定こども園「ゆいの詩」開園 こども発達支援「Cocoro島本」 開所	音楽療法 P12
		リスクマネジメント委員会 BCP策定・訓練			災害支援活動 P14	



art space co-jinで利用者様
9名がグループ展開催

撮影:art space co-jin

当法人には、通称「粘土室」と呼ばれるアトリエがあり、「円」「凧」の入所者様を中心にここで暮らす方々が日中プログラムとして粘土や絵画の創作に取り組んでいます。

利用者様が地域社会に参画する重要な機会として、これまで市民芸術祭やカフェ等にその作品を展示してきましたが、2023年度は新たに、art space co-jin(京都市上京区)にて7月18日から10月1日まで、朝村隆様、大江茂春様、奥三雄様、佐藤佳世子様、澤本隆様、玉井敬士様、西生てる子様、西村妙子様、早見元良様の9名の利用者様を出展作家とするグループ展を開催しました。

京都府では、文化芸術活動を通じて障害者への理解と社会参加を促進するべく、大学、芸術家、福祉事業者、企業、美術館、行政等で構成する「きょうと障害者文化芸術推進機構」(事務局:京都府障害者支援課)を2015年12月に創設。art space co-jinはその活動拠点として2016年1月に開設され、障害のある方の絵画、写真、陶芸、インスタレーションなどに出会えるギャラリーを中心に、イベント、ワークショップ、講座などを通じて交流を創出する場となっています。

当法人では、来年度以降も障害のある方の芸術活動と地域共生を支援していきます。



制作:art space co-jin

本格的なグループ展は初



作品を通じて多様性への理解が育まれる



歩留り率98%に向上。
利用者様の作業定着が進む

河川の氾濫や溜め池の監視、高齢者の見守りなどに広く役立てられる半導体センサー基板の製造において、障害のある方とロボットが協働する「KOUFUKU(工福)連携」が進んでいます。

この福祉×工業の連携は、龍谷大学、京都大学、和歌山大学等の研究機関と、川崎重工業株式会社、株式会社JOHNAN等の民間企業、そして当法人の産学福連携によって可能となりました。

当法人では、人間と協働するためにデザインされたロボット^{デュアロ}duAroを2022度に2台導入。利用者様が基板に部品をセットすると、duAroがはんだ付けを行い、完成品を利用者様が取り出す作業工程の流れを構築しました。

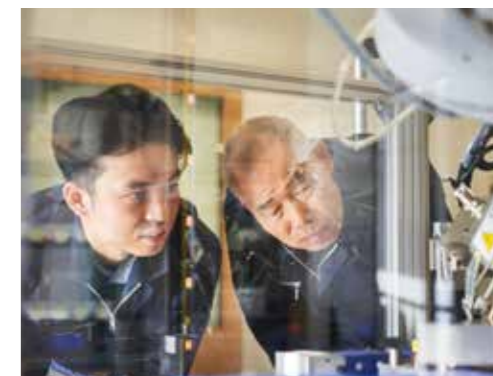


ピンセットで部品をセットする繊細な作業

2023年度は受注体制を整えるべく、製品の質を見きわめ、必要に応じて手直しする職員のスキル向上等に努めた結果、歩留り率が86%から98%に上昇。

また、課題となっていた利用者様の作業定着についても、この作業にたずさわる利用者様の増員とそれぞれの強みを生かしたオペレーションの確立を行いました。

地政学的リスクや自然災害の影響等により半導体の需給バランスが崩れ、部品の調達に滞ったことから初出荷は見送られましたが、2024年度以降、実販売実績につながる日が待たれます。



工場研修を受けた職員も協働

人間にしかできない福祉の仕事を再構築するために



ICT※1の活用による福祉サービスの質の向上、職場環境の改善が進んでいます。

「紡」では2021年より業務用スマートフォンにBuddycom※2を搭載して使用。館内で利用者様をさがす際、また緊急入院時の情報集約などに業務効率の改善が図られています。

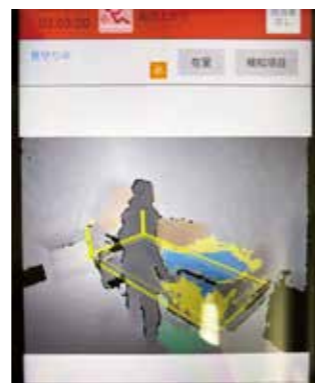
「紡」「円」では2022年より赤外線センサーを使用した見守りシステム「Neos+Care」を導入。夜間の課題として、事故発見の遅れを防ぐために職員が数回の訪室を行い、訪室によって入所者様の睡眠を妨げることがありましたが、導入後は睡眠の質の向上とともに、職員のケア時間の確保にも改善がみられました。

地域福祉支援センター島本（ふらっぶ、ういっしゅ）では、試験的に、新人職員が生成AI※3を使用して架空の事例についてアセスメントシートと個別支援計画の原案を作成。同じ架空の事例について経験豊富なサービス管理責任者が作成したものに見劣りしない計画書ができることがわかりました。生成AIをはじめとするICT活用は、利用者様に寄り添うゆとりを職員にもたらし、人間にしかできない福祉の仕事を再構築するための大きな可能性を秘めています。

※1:Information and Communication Technologyの略。情報通信技術。
 ※2:インターネット通信によりスマートフォンやタブレットを無線機として利用できるIP無線のアプリ。
 ※3:学習によって文章、画像、音楽等を生産する人工知能。ChatGPT、Bing等がある。



ICTで業務効率が改善



プライバシーに配慮したシルエット映像で見守り

強度行動障害支援者養成研修で法人内部が活性化



強度行動障害の支援は家庭はもちろん福祉施設においても困難を極め、適切な支援を行える人材の育成が求められています。当法人では「翼」「光」のスタッフが中心となり、毎年、「強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）」を開催してきました。

この研修は法人外部からも広く参加を募るもので、2023年度は、WEB講義1日、演習1日の計2日間のプログラムを京都市下より105名が受講しました。さらに、2022年度の受講者を対象にアフターフォローを実施。5法人をのべ10回にわたり職員が訪問し、行動障害を有する利用者様への対応について事例を検討しました。

「光」では、話し言葉によるコミュニケーションに困難を抱える利用者様を支援するため、PECS（ペクス）※を約7割の方が使用しています。近年、絵カードを音声機能付きのiPadで示すことが可能になり、第三者ともより円滑なコミュニケーションが期待できるステップへと進んでいます。

※PECS:Picture Exchange Communication System
 （絵カード交換式コミュニケーションシステム）

当法人では、強度行動障害支援者養成研修のフォローアップの一環として、「PECSレベル1ワークショップ」を開催。職員にも聴講を促した結果、法人内で新たに「円」や「魁」にPECSが導入されました。現在、PECSに取り組む施設は、光・輝・翼・凜・円・魁・センター島本の7施設となり、利用者様の意思決定を支援する実践が広がっています。



iPadで要求や思いを伝える



研修を通じてPECS導入施設が増えた

理解教育を継続。
休止していた演奏会も再開



地域共生社会の実現には、その構成員である子どもたちに身のまわりの人々や地域との関わりを通して、そこにどのような福祉の課題があるかを学び、その課題を解決する方法をみずから考え、行動する力を養い、ともに生きる力を育む福祉教育が欠かせません。

当法人では、各施設の近隣の保育園、小学校、中学校の児童・生徒と利用者様の交流の機会を創出し、街なかに立地する「凜」「翼」を中心に福祉教育に協力してきました。

「凜」「翼」では2016年以降、城陽市立富野小学校に若手職員が赴き、障害についての理解教育を実践。2023年度は小学校5・6年生を対象に、耳の不自由な店員に注文をするシミュレーションなどを通じ、五感の働きと障害について考えました。

また、「翼」では、新型コロナウイルス感染症の影響で休止していた城陽市立南城陽中学校との交流を再開。利用者様と職員が訪問し、施設の概要を理解いただいた後、吹奏楽部のみなさんをお招きし、「彩雲館」で演奏会を開催。城陽エリアの施設から多くの利用者様が聴きに訪れ、生徒さんの家族や友人とともに生演奏を楽しみました。



若手職員の話に興味津々



子どもたちから次々に手が挙がる

発達がゆっくりなお子さんの
可能性を引き出す



認定こども園「ゆいの詩」に併設される「Cocoro島本」は市町村の健診や発達相談などを通じて療育をすすめられたお子さんのための通所施設です。子育て世代の方々が安心して暮らせる地域社会の拠点となることをめざして、おおむね2歳～6歳のお子さんを対象に、通所されていない方も参加できる音楽療法レッスンを2023年12月にスタートさせました。

音楽療法とは、「音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること」と定義されています※。
※日本音楽療法学会（2001）

お子さんを対象とした音楽療法では、音という非言語コミュニケーションによる自己表現の拡大や他者との交流を通して、思いを誰かと共有したいという気持ちを引き出します。体幹の安定、達成感の獲得、意欲の向上を図り、その体験を日常生活の中で生かせるようにアプローチしていきます。集団生活になじむこと、友達と良好な関係を築くこと、自分の気持ちを表現できること、感情をうまくコントロールできることなど、大人になっても必要な基礎の力を音楽療法を通じて培うことをめざします。

講師は、日本音楽療法学会認定音楽療法士の菊本千尋先生。特性のあるお子さんを中心に200名以上に関わってこられた音楽療法の実績に加え、ASDとADHDの特性のある息子さんがおられるご自身の子育ての経験も保護者へのサポートにつながっています。



音楽に合わせて動くことで体幹が安定する



発語に特化した選曲



経営基盤を強化する
互助組織が発足

人口減少が加速化するなか、2040年にはわが国の人口の35%を65歳以上が占めることが予測され、介護ニーズが増大する一方、子育てや生活困窮など、福祉ニーズはますます複雑化・多様化しています。社会福祉法人には、地域共生社会の実現に向けた良質かつ適切な福祉サービスの提供を将来にわたって持続可能なものとするために、経営基盤のよりいっそうの強化を図ることが求められています。

社会福祉連携推進法人は、こうした背景のもと、参画する社会福祉法人の経営をバックアップしながら、地域特性に応じた創意工夫ある新たなサービスの創出や福祉人材の確保などに取り組む互助組織です。京都府では社会福祉連携推進法人として、一般社団法人きょうと福祉キャリアサポートが2023年8月に設立され、現在、京都府社会福祉事業団、向陽福祉会、秀孝会、山城福祉会、宇治福祉園、みねやま福祉会、当法人の7法人が参画しています。

2024年3月には、社会福祉法人がみずから企画運営する就活イベント「フクシロフェア」を共同開催。各法人の若手職員によるトークセッション、学生のみなさんとの対話型ブースセッション等を行い、福祉人材の確保に向けた新しい取り組みがスタートしました。



河原町御池「QUESTION」で
就活イベントを共同開催



アットホームな雰囲気です若手職員と語り合った



京都DWATとして、職員を
能登半島地震被災地に派遣

右手で石川県のかたちをつくる宮城・茨城・千葉・富山・京都・岡山DWATと七尾市職員

高齢者、障害者、乳幼児、妊産婦、外国人など災害時の避難生活が心配される方々は災害対策基本法で「要配慮者」とされ、二次被害を防ぐための特別な支援が求められます。京都府では大規模災害時の避難所体制構築のため、福祉専門職で構成する京都DWAT※を2014年に設立。現在、府内に12チーム170名が登録するなか、当法人からも、介護福祉士、作業療法士、管理栄養士の5名が登録し、2018年の西日本豪雨災害等に派遣活動を行ってきました。

※Disaster Welfare Assistance Teamの略。災害派遣福祉チーム。

2024年1月1日に発生した能登半島地震では、京都府の要請にもとづき、1月18日から2月18日にかけて職員3名を石川県七尾市に派遣。電気、水道のライフラインの復旧の見通しが立たないなか、七尾市内に設営された避難所を巡回しながら、福祉ニーズを把握し、必要な福祉サービスの調整などを行う地域リーダーとして活動しました。

また、当法人の「彩雲館」は災害時に福祉避難所としての機能を果たすべく城陽市と協定を結び、レトルト食品や紙パンツ等を備蓄しているため、地震発生3日後の1月4日、佛教大学福祉教育開発センターの後藤至功先生を通じて、被災された皆さまに救援物資をお届けすることができました。



避難所巡回中も余震が続いた

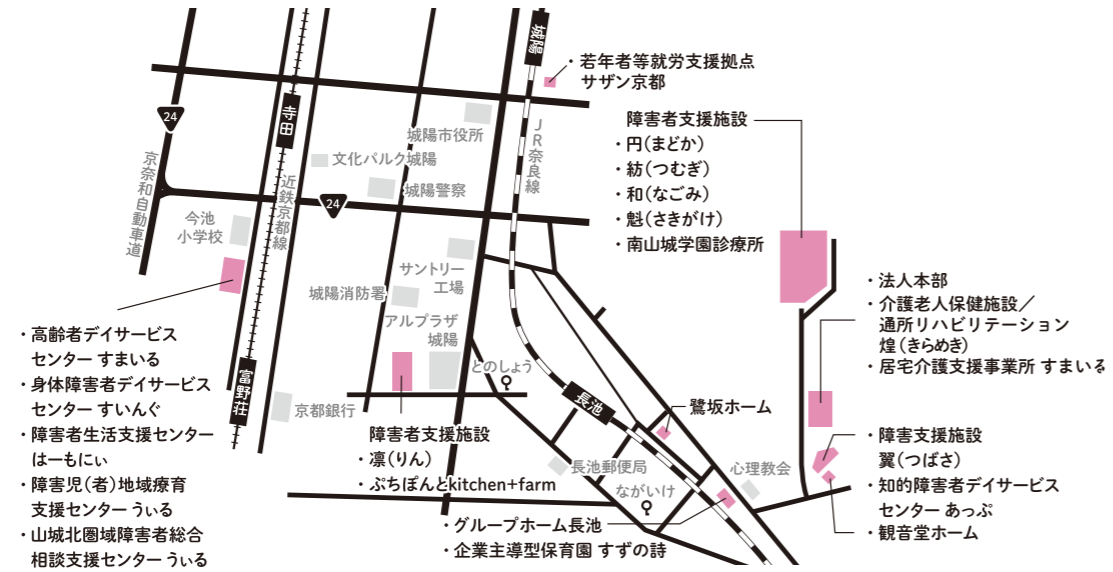


被災地に届けられた備蓄品

施設とエリア

1

城陽
エリア
城陽市



- ・高齢者デイサービスセンター すまいる
- ・身体障害者デイサービスセンター すいんぐ
- ・障害者生活支援センター はーもにい
- ・障害児(者)地域療育支援センター ういる
- ・山城北園域障害者総合相談支援センター ういる

彩雲祭に600人が来場

年1回の交流イベント「彩雲祭」を11月に開催しました。城陽市内の吹奏楽団によるオープニング、キッズダンスの子どもたちと利用者様が踊るステージ、薪割り体験、ポッチャ、ものづくり体験ブース、クイズラリー、飲食店屋台などが敷地内広場を中心にくりひろげられ、600人を超える地域の皆さまと利用者様、職員がともに笑顔で過ごす半日となりました。



城陽市のフードドライブ事業に参画

「グループホーム支援室」では家庭で余剰となった食品を集めてフードバンクに寄付するフードドライブの取り組みを2022年度より実施し、2023度は法人各施設の朝礼などに利用者様と参加してエコ意識を高め、法人内部にこの取り組みを拡大しました。地域社会の一員として、城陽市のフードドライブ事業にも参画。市の職員の方と協力しながら、金融機関やスーパー等の会場に集められた食品を回収し、「彩雲館」に運び込み、仕分け作業をする工程を担いました。



機能訓練スペースを無料開放

「煌」では、機能訓練スペースの無料開放を再開。毎月第2・第4土曜の午前、通所リハビリテーション用のトレーニングマシンを送迎付きで地域の方々に使用いただいています。また、恒例となったヨガ教室を2023年度も開催し、地域の皆さま18名が参加されました。



「健康体操教室」を6回開催

「地域福祉支援センター城陽(すまいる、すいんぐ)」では、2022年度に初めて開催した「健康体操教室」を2023年度は6回開催。地域の皆さまに加えて「すまいる」「すいんぐ」の利用者様も参加され、施設と地域をつなぐ交流の場となりました。



地域の高齢者のご自宅を訪問

富野校区社会福祉協議会の主催する「ふれあい敬老のつどい」に当法人の職員がスタッフとして参加し、会場となった富野小学校体育館の床にシートを張り、飾りつけ等を行いました。また、地域のボランティアの方と当法人の利用者様、職員と一緒に高齢者のご自宅を訪問し、お祝いの品を渡しました。社会福祉協議会のこの取り組みはご高齢の方の安否確認を兼ねて行われています。



こども食堂が地域コミュニティの核に

地域福祉支援センター城陽では、今池校区の子どもたちを対象に、毎月第2・第4金曜日にこども食堂を開催。当法人職員をはじめ、地域ボランティア、学生ボランティア、民生委員、行政職員、他法人職員、保護者らがスタッフとして運営に関わり、地域コミュニティの核となりつつあります。



夏休み自由研究に協力

利用者様が日中プログラムとしてハーバリウムを製作・販売している「凛」では、そのノウハウを生かし、カフェ「ぶちぼんと kitchen + farm」で「夏休み自由研究 ペットボトルでハーバリウムをつくってみよう!」と題した教室を開催。小学校6年までのお子さん9名と保護者が参加されました。

また、障害のあるお子さんを対象に「秋祭りinぶちりあんカフェ」を4年ぶりに開催。お菓子釣りゲームなどの縁日を楽しんでいただきました。

京田辺市からの畑の移転が決まった「ぶちぼんとファーム」では、秋恒例の「安納芋収穫祭」が行われました。



保育園との交流を再開

「和」では近隣の清仁保育園との交流活動を再開。利用者様が日中プログラムとして製作しているアロマサシェ(香り袋)の体験ブースを年長組発表会に設置いただき、園児と保護者の皆さまにご参加いただきました。

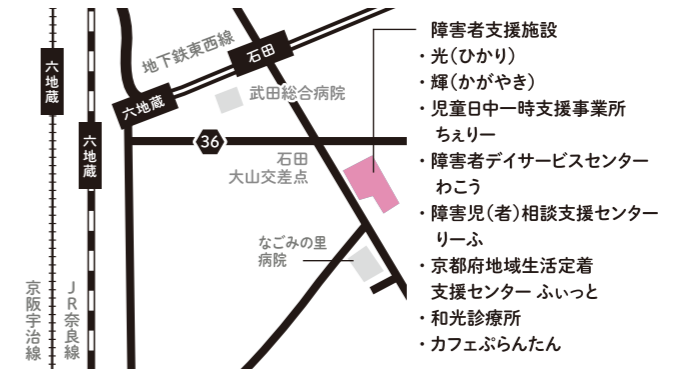


施設とエリア

2

醍醐 エリア

京都市伏見区



スポーツを通じて学ぶ障害

「輝」では、辰巳保育園、春日野小学校との交流活動を行いました。2025年がオリンピックイヤーにあたることから、春日野小学校4年生の児童に障害者スポーツ「ボッチャ」を紹介し、スポーツを通じて障害について学んでいただく機会としました。



こども食堂で防災体験

醍醐エリアでも春日野小学校の子どもたちを対象に、こども食堂「ダイニングあんさんぶる わこう」を毎月開催。2月には防災をテーマに、備蓄食の試食や段ボールベッドの組み立てを体験しました。



利用者様が地域交流

障害者デイサービスセンター「わこう」では春日野学区社会福祉協議会の方々と利用者様の交流の場「すこやかサロン」を2回開催。12月にはフェルトでの干支作りをなごやかに行いました。

施設とエリア

3

宇治 エリア

宇治市



抹茶のお菓子がデビュー

就労移行支援・就労継続支援A型事業所「さびゆいえ」では、城陽茶業組合と連携し、城陽の伝統産業である抹茶を使った付加価値の高い商品開発に取り組み、「一粒の極み ブールドネージュ」を2023年10月に完成、発売となりました。



「さびゆ祭り」4年ぶりに開催

カフェ「さびゆいえ」で4年ぶりに「さびゆ祭り」が開催されました。縁日、手作りクラフト、絵付け体験、模擬店コーナー、絵本カフェなど、地域の皆さまにご家族で楽しんでいただきました。



「きょうだい児」が体験をシェア

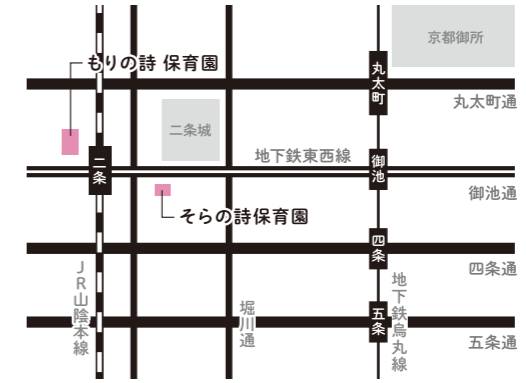
カフェ「さびゆいえ」で、龍谷大学・深尾ゼミ生が主催する「きょうだい児の会」が開かれました。きょうだい児とは、病気や障害をおもちの兄弟姉妹がおられる人のこと。親の愛情が兄弟姉妹に注がれて孤独を感じながら育ったり、兄弟姉妹の行動に恥ずかしさを感じる自分をうしろめたく思うなど、きょうだい児だからわかりあえる互いの体験や悩みをシェアしました。

施設とエリア

4

中京区 エリア

京都市



すぐろくで防災を学ぶ

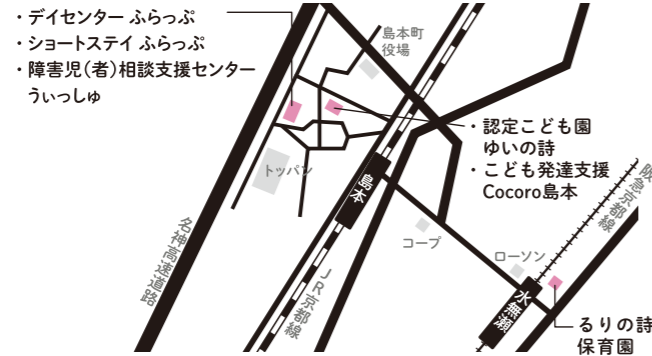
「もりの詩保育園」では、園児と近隣の中学・高校生、専門学校生、大学生の交流の場を設けています。京都文化医療専門学校のみなさんはクイズや劇による衛生教育、歯磨き指導をしてくださいました。光華女子中学・高校和太鼓部のみなさんはクリスマス会で和太鼓を実演。光華女子大学災害支援サークル彩華(いろは)のみなさんは自作の防災すぐろくで園児と楽しく遊びながら、防災について学ぶ機会を提供してくださいました。子どもたちの笑顔にふれて生徒・学生のみなさんにも笑顔があふれ、「困っている子どもさんに手を差し伸べるような仕事に就きたい」という声も聞かれました。

施設とエリア

5

島本町
エリア

大阪府三島郡



地元の方にモーニングを提供

「ゆいの詩」では、園児のためのランチルームを開放し、島本町にお住まいの60歳以上の方にモーニングを提供しました。2回の開催でのべ11名の方にご来園いただき、軽食とコーヒー等を職員も一緒にいただきながら、当園の保育について、また島本町の福祉について打ち解けて話す場となりました。



飯田農園で収穫体験

「ゆいの詩」の3・4・5歳児が「飯田農園」を訪れ、玉ねぎ・じゃがいも・きゅうり・さつまいもなどの野菜の収穫を体験させていただきました。また、飯田農園の方にご来園いただき、稲の苗植えにも挑戦しました。

こども食堂がスタート

城陽、醍醐で開いてきたこども食堂「ダイニングあんさんぶる」を地域福祉支援センター島本(ふらっぶ、ういっしゅ)でも毎月第1土曜日に開催しました。



DATA 2023

191人

障害のある方を支援して就職につながった人数

障害者就業・生活支援センターはびねす、若年者等就労支援拠点サザン京都、就労移行・就労継続支援A型事業所さびゆいえでは、就労へのステップアップをサポートしています。

474人

新卒エントリー数

若年人口の減少傾向により、様々な企業が人材確保に取り組むなか、法人の採用計画において新卒のエントリー数および内定へつながる確率は高まっています。

90人

実習・インターンシップの受け入れ人数

保育士や社会福祉士、教員になるために必要な実習やインターンシップを積極的に受け入れ、福祉の現場の魅力を伝えています。

20034人

カフェ(ぷちぽんとkitchen+farm、ぷらんたん、さびゆいえ)を利用したお客様の数

地域と障害のある方の架け橋となることを願って、複数の施設の敷地内でカフェを運営しています。

244回

法人内で開催した職員研修の数

職員の質の向上をめざし、積極的に職員向けの研修を開催しています。

令和5(2023)年度 法人決算報告

単位:千円

貸借対照表		事業活動計算書	
流動資産	2,432,347	【サービス活動増減の部】	
固定資産	6,929,367	サービス活動収益計(1)	4,508,720
資産合計	9,361,714	サービス活動費用計(2)	4,211,046
流動負債	548,200	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	297,674
固定負債	481,597	【サービス活動外増減の部】	
純資産の部	8,331,917	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	1,399
負債及び純資産合計	9,361,714	経常増減差額(7)=(3)+(6)	299,073
		【特別増減の部】	
		特別増減差額(10)=(8)-(9)	18,503
		当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	317,576
		前期繰越活動増減差額(12)	4,857,562
		次期繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	5,175,138